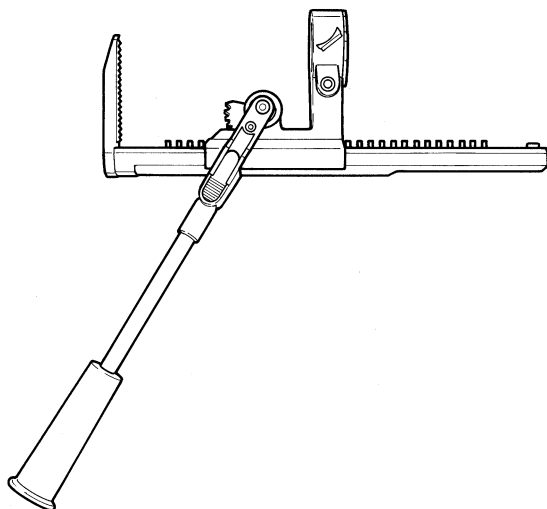
日立工機

日立ボーラー用スタンド

D13-DSD

取扱説明書

このたびは日立ボーラー用スタンドをお買い上げいただき，ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり，正しく安全にお使いください。
お読みになった後は，電気ドリルの取扱説明書と一緒に，いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。

目　　次

⚠警告，⚠注意，注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠**警告**」と「⚠**注意**」に区分していますが，それぞれ次の意味を表します。また，「**注**」の意味も説明します。

⚠ **警 告**　：　**誤った取扱いをしたときに，使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

⚠ **注 意**　：　**誤った取扱いをしたときに，使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

なお，「⚠**注意**」に記載した事項でも，状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので，必ず守ってください。

注　：　**製品の据付け，操作，メンテナンスに関する重要なご注意。**

ボーラー用スタンドの使用上のご注意

本ボーラー用スタンドは，５ページに指定した日立電気ドリル専用のスタンドです。これらの電気ドリルを取付けて安全にご使用いただくために，次に述べる注意事項を守ってください。

⚠　警　告

① 電気ドリルや付属品は，取扱説明書に従って確実に取り付けてください。
確実でないと，はずれたりし，けがの原因になります。

② 小物材料に穴あけするときは，材料が錐により振り回されないように，バイスなどを使用して，しっかりとおさえてください。錐の抜けぎわに材料が回されることがあります。
しっかりとおさえないと，材料が回されて，けがの原因になります。

③ 使用中は，回転部や切りくずに手や顔などを近づけないでください。
けがの原因になります。

④ 使用中，機体の調子が悪かったり，異常音がしたときは，直ちにスイッチを切って使用を中止し，お買い求めの販売店，または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。
そのまま使用していると，けがの原因になります。

⚠　注　意

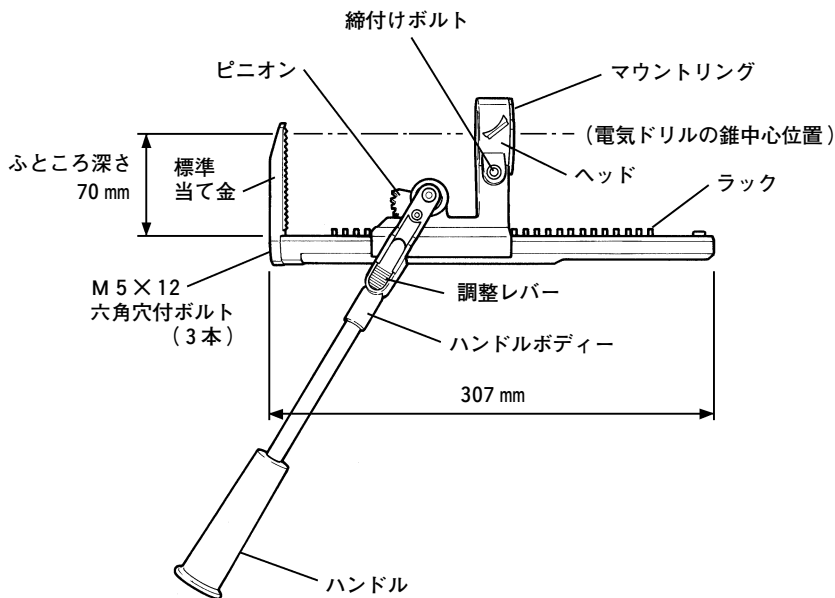
① 使用中は，軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。
回転部に巻き込まれ，けがの原因になります。

② 穴あけ直後の錐や切りくずは高温になっているので，触れないでください。
やけどの原因になります。

③ 回転させたまま，放置しないでください。
けがの原因になります。

各部の名称

図 1

仕 様

全長	307 ㎜
ふところ深さ	70 ㎜（標準当て金使用時） 140 ㎜（Ｌ型当て金使用時）
ドリルマウント径	ϕ43 ㎜
有効移動量	220 ㎜
ストローク（送り量）	35 ㎜
てこ比	1 ： 10 （力＝1/10）
質量	1.7 kg

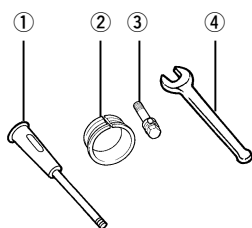
標準付属品

① ハンドル･･････････････････1個
② マウントリング････････････1個
③ 締付けボルト･･････････････1個
④ 13㎜スパナ･･･････････････1個

図 2

別売部品

(1) L型当て金

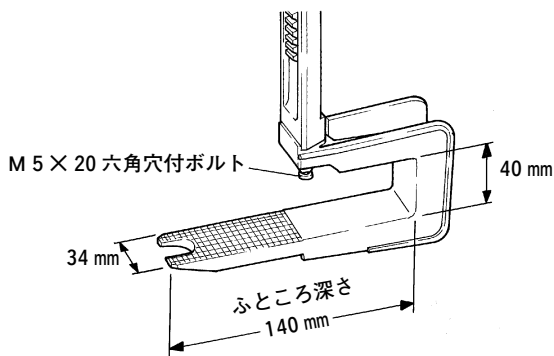



図 3

(2) V溝付当て金

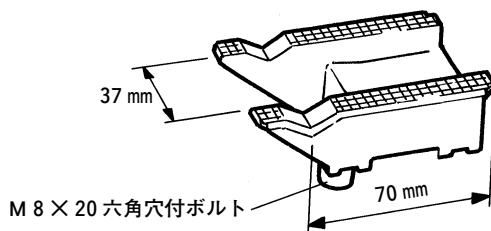



図 4

(3) Cチャンネル用当て金

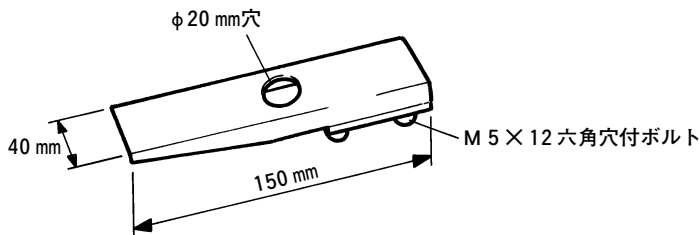



図　5

用　　途

電気ドリルを取付け，各種金属，プラスチックなどの穴あけ作業

適用電気ドリル

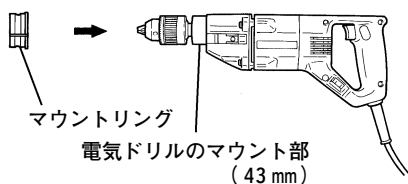
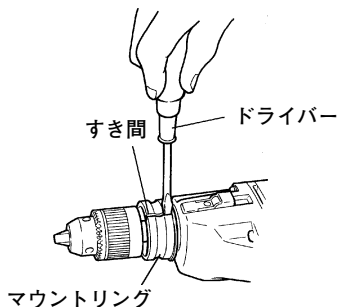
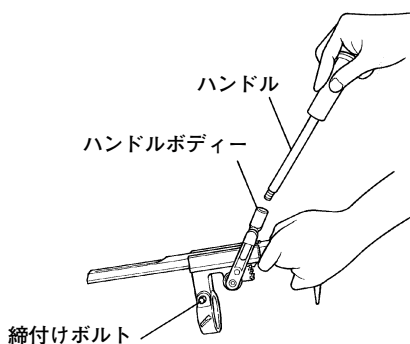
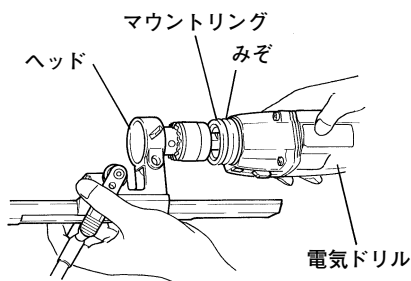
最大穴あけ能力(鉄工)	形　　名
13㎜	D13VC　*1(D13VD　D13VE)　*2D13TA *2DMT-13A　*2VTP-16　DV21V

＊1 付はボーラー用スタンドが付属している機種です。
＊2 付は旧形機種です。

組 立 て 方

⚠ 警　告

- **万一の事故を防止するため，必ず電気ドリルのスイッチを切り，さし込みプラグを電源から抜いておいてください。**
- **電気ドリルの固定は，確実に行なってください。確実でないと，はずれたりし，けがの原因になります。**

図　6

(1)　マウントリングを電気ドリルのマウント部（43㎜）に取付けます。
（図6）

マウントリングの取付けが固いときは，ドライバーなどですき間を拡げてください。（図7）

図　7

(2)　ハンドルをハンドルボディーにねじ込み，取付けます。（図8）

(3)　締付けボルトを取りはずします。
（図8）

ハンドル
ハンドルボディー
締付けボルト

図　8

(4)　図9のようにマウントリングの付いた電気ドリルをヘッドの奥までさし込み，取付けます。

図　9

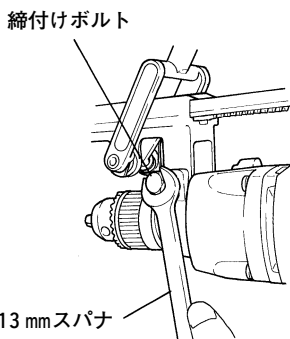



図　10

(5)　マウントリングのみぞ部分に締付けボルトを通して，付属の13㎜スパナでしっかりと締付けます。（図10）

※電気ドリルの取付け方向については，８ページの「電気ドリルの位置調整」の項を参照してください。

ご使用前に

⚠　警　告
• ご使用前に次のことを確認してください。１～２項については，さし込みプラグを電源にさし込む前に確認してください。

１．使用電源を確かめる………

必ず銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転数が異常に高速になり，機体が破壊する恐れがあります。また，直流電源で使用しないでください。製品の損傷を生じるだけでなく，事故の原因になります。

２．スイッチが切れていることを確かめる………

スイッチが入っているのを知らずに，さし込みプラグを電源にさし込むと不意に起動し，思わぬ事故のもとになります。スイッチはスイッチ引金を引くと入り，離すと切れます。

スイッチの引金を引き，離したとき引金が戻ることを必ず確認してください。

３．電源コンセントの点検………

さし込みプラグをさし込んだとき，ガタガタだったり，すぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。

そのままお使いになりますと，過熱して事故の原因になります。

使　い　方

1．電気ドリルの位置調整………

ハンドルを引くことによる錐のストローク（送り量）は，被加工材側へ35㎜です。

被加工材の形状および厚さに応じて，錐の刃先と当て金の距離Ａ（図11）を調整します。

(1) 図11のように調整レバーを押したまま，ハンドルを当て金方向に移動させ，ラックとピニオンのかみ合いを解除します。（これでヘッドは移動可能になります。）

(2) 被加工材に合わせて，錐の刃先と当て金の距離Ａを調整します。

※一度穴あけ深さを調整しますと，何回作業を繰り返しても，この距離は変わりません。

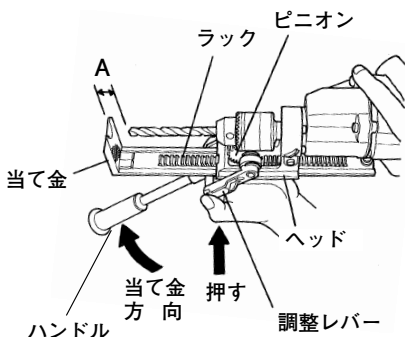
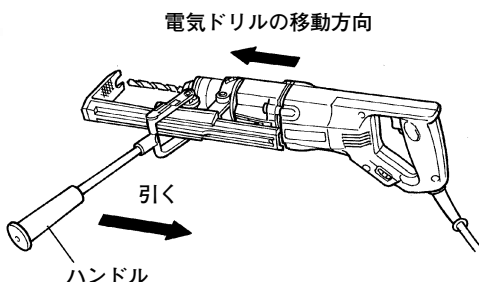



図　11　　　　図　12

2．スイッチが入っていないことを確かめ，さし込みプラグを電源にさし込みます。

3．スイッチの操作………

スイッチはスイッチ引金を引くと電源が入ります。
切るときは引金を戻してください。
（詳しくは，電気ドリル本体の取扱説明書をお読みください。）

4．穴あけするには………

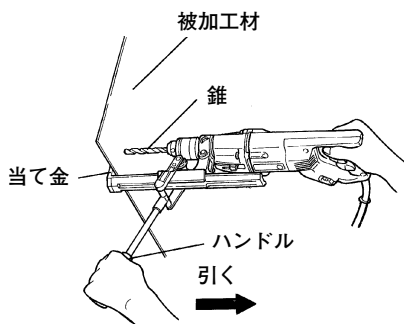



図　13

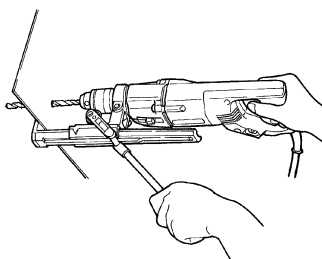



図　14

錐が回転したらハンドルを手前に引いて電気ドリルを被加工材の方へ移動させ，穴あけを行ないます。

※本機はストロークが35㎜のため，被加工材の厚さが35㎜以上の場合，前項の「1．電気ドリルの位置調整」を繰り返してご使用ください。

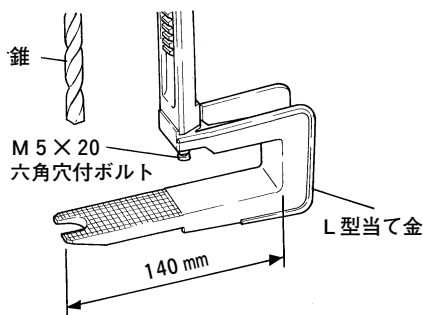
注
- **錐の回転速度を落とさないように作業してください。ハンドルを強く引きすぎると錐の回転速度が落ち，モーターを焼損する恐れがあります。**
- **当て金は，できるだけ被加工材全面に接触させてください。**

5．切りくずが調子よく出る程度にハンドルを引いてください。

必要以上に力をかけても決して早く穴はあきません。かえって錐先をいためて作業能率が低下するだけでなく，本機の寿命も短くなります。

別売部品の使い方

1．Ｌ型当て金………

図　15

○ ふところ深さを拡げて，被加工材の端面から140㎜の位置まで穴あけできます。

○ Ｍ５×12六角穴付ボルト（３本）をはずして標準当て金をはずし，Ｌ型当て金をＭ５×20六角穴付ボルト（３本）で固定します。

2．Ｖ溝付当て金………

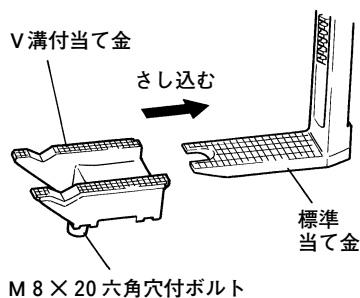



図　16

○ パイプ状の被加工材および角度のある被加工状に対して穴あけできます。
また，ホールソー使用時にご利用ください。

○ Ｖ溝付当て金を標準当て金の奥まで押し込み，Ｍ８×20六角穴付ボルト（２本）で固定します。
また，図18のように角度のある被加工材に穴あけする場合は，六角穴付ボルトの締付け量で角度を調整してください。

図　17

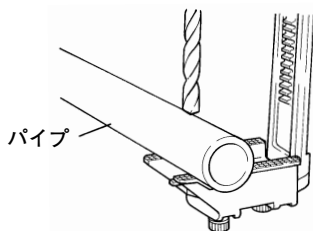
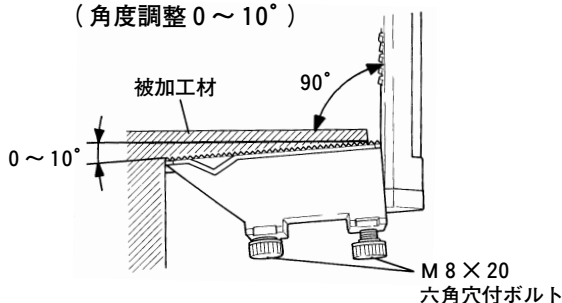



図　18

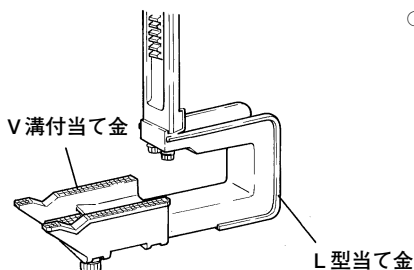



図　19

○図19のように，L型当て金と組合わせて使用できます。
取付け方法は，標準当て金のときと同じです。（前ページの図16参照）
太径のパイプ材，長いふところ深さが必要で角度のある被加工材にご利用ください。

3．Cチャンネル用当て金………

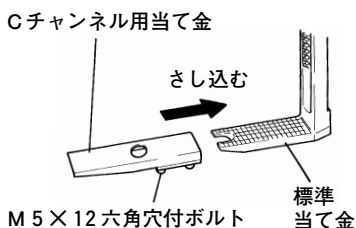



図　20

○リップみぞ形鋼（Cチャンネル）などに対して穴あけできます。

○Cチャンネル用当て金を標準当て金の奥までさし込み，M5×12六角穴付ボルト（4本）で固定します。

○図22のようにL型当て金と組合わせて使用できます。取付け方法は，標準当て金のときと同じです。（図20参照）

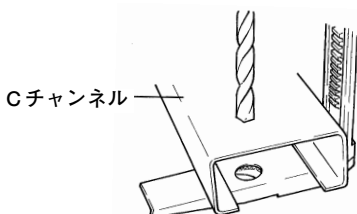



図　21

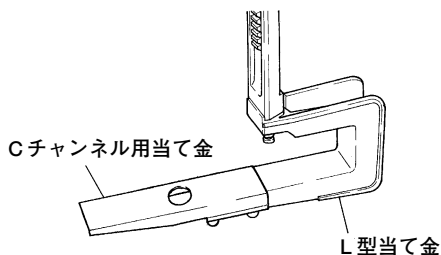



図　22

保守・点検

⚠ 警　告
• 点検・手入れの際は，必ず電気ドリルのスイッチを切り，さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

1．錐の点検………

錐の切れ味が悪くなったのをそのままご使用になっておりますとモーターに無理をかけることになり，また能率も落ちますから早めに再研磨するか新品と交換してください。

2．各部取付けネジの点検………

各部取付けネジでゆるんでいるところがないかどうか定期的に点検してください。もしゆるんでいるところがありましたら締めなおしてください。

ゆるんだままお使いになりますと，けがなど事故の原因になります。

3．製品や付属品の保管………

使用しない製品や付属品の保管場所として，下記のような場所は避け，安全で乾燥した場所に保管してください。

○お子様の手が届いたり，簡単に持ち出せる場所
○軒先など雨がかかったり，湿気のある場所
○温度が急変する場所
○直射日光の当たる場所
○引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

このような場所には保管しない。

ご修理のときは

本機は，厳密な精度で製造されています。したがいまして，もし正常に作動しなくなったような場合には，決してご自分で修理をなさらないで下記のところにご用命ください。

最寄りの ｛日 立 電 動 工 具 販 売 店
日立工機電動工具センター｝

ご不明のときは，裏表紙の日立工機サービス(株)サービス技術センター，または営業拠点にご相談ください。

その他，部品ご入用の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら，ご遠慮なくお問い合わせください。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(No.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日　　年　　月　　日	販売店
製造番号(No.)	電話番号

■ 日立工機電動工具センターにご用命のときは、下記の営業拠点にお問い合わせください。

● 全国営業拠点

拠点	郵便番号	住所	電話
営業本部	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号（品川インターシティA棟）	☎(03) 5783-0626(代)
北海道支店	〒060-0003	札幌市中央区北三条西四丁目1番地1（日本生命札幌ビル）	☎(011) 271-4751(代)
東北支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東三丁目3番36号	☎(022) 288-8676(代)
東京支店	〒110-0016	東京都台東区台東四丁目11番4号（三井住友銀行御徒町ビル）	☎(03) 5812-6331(代)
中部支店	〒460-0008	名古屋市中区栄三丁目7番13号（コスモ栄ビル）	☎(052) 262-3811(代)
北陸支店	〒920-0058	金沢市示野中町一丁目163番	☎(076) 263-4311(代)
関西支店	〒530-0001	大阪市北区梅田二丁目6番20号（スノークリスタル）	☎(06) 4796-8451(代)
中国支店	〒730-0011	広島市中区基町11番13号（第一生命ビル）	☎(082) 228-0537(代)
四国支店	〒760-0078	高松市今里町一丁目28番14号	☎(087) 863-6761(代)
九州支店	〒813-0062	福岡市東区松島四丁目8番5号	☎(092) 621-5772(代)

● 電動工具ご相談窓口 ── お買物相談などお気軽にお電話ください。

お客様相談センター　フリーダイヤル　0120-20 8822（無料）

※携帯電話からはご利用になれません。（土・日・祝日を除く　午前9：00～午後5：00）

電動工具ホームページ ── http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/

日立工機株式会社

807

部品コード　C99505601　N